リジュセア®ミニ点眼液 0.025%による近視進行抑制治療について

リジュセア®ミニ点眼液 0.025% よる近視進行抑制治療については、発売前の臨床試験において、点眼を行わない場合に比べて、小児の屈折値の進行や、眼軸長の伸びを抑制することが確認されました。主な副作用として羞明(まぶしさ)があります。

本治療は、近視の進行を抑えることを目的としています。ただし、完全に近視の進行を止めることはできません。 また、この治療は視力を回復させるものではありませんので、その点をご理解ください。 近視の程度に応じて眼鏡等での視力矯正が別途必要となります。

治療に用いる薬剤

・名 称 : リジュセア®ミニ点眼液 0.025% (1箱 30日分 3,900円)

治療スケジュール・費用

検査後、適応と判断されれば治療開始となります。副作用等がなく、治療継続に問題なければ、定期的に効果をモニタリングします。

検査・薬剤費用は全て自由診療(公的医療保険の対象外)となります。

治療スケジュール	費用(税込)
初回	診察・検査費用 2,000円 + 点眼薬費用 3,900円 (30日分)
	主な検査項目:視力・屈折、眼圧、細隙灯顕微鏡検査、眼軸長測定
2 回目	診察・検査費用 2,000円 + 点眼薬費用 7,800円 (60日分)
(初回から1ヶ月後)	主な検査項目:視力・屈折、眼圧、細隙灯顕微鏡検査、前眼部写真撮影
3回目	診察・検査費用 2,000円 + 点眼薬費用 11,700円 (90日分)
(初回から3ヶ月後)	主な検査項目:視力・屈折、眼圧、細隙灯顕微鏡検査、眼軸長測定

- ※3回目の治療以降は3か月毎の定期的な通院が必要です。診察・検査費用(税込2,000円)および 点眼薬費用(90日分税込11,700円)が必要となります。
- 注)リジュセア®ミニ点眼液 0.025%による治療は自由診療です。 なお、副作用等で治療を中止した場合でも、一旦処方した点眼薬については原則、返品・返金に応じることはできない 旨、あらかじめご了承ください。

お問合せ先

ご不明な点がございましたら下記までご連絡ください。 オシダ眼科クリニック TEL 03-3694-7123

主な近視進行抑制治療の種類について

近視の進行抑制治療の目的は、近視が強くなることを防ぐことと、将来の目の病気のリスクを低下させることです。 主な近視の進行抑制治療法の概要は以下のとおりです。個人差がありますが、いずれの治療法も、治療をやめると近 視の進行が早まる可能性があり、10 代後半まで続ける必要があります。

名 称	概 要(特徴、使い方、副作用、対象など)	費用の目安
アトロピン点眼液	瞳を広げる作用のあるアトロピンという目薬を1日1回寝る前	1ヶ月
	に点眼する治療法です。副作用として、点眼後にまぶしさを感じ	5,000 円 ~
	ることがあります。	10,000 円
	眼鏡やコンタクトレンズによる視力矯正が別途必要です。オル	
	ソケラトロジーや多焦点ソフトコンタクトレンズと組み合わせ	
	て使用することが可能です。	
	0.025%、0.01%アトロピン点眼は、日本人の小中学生の近視に対	
	して有効性と安全性が確認されています。	
オルソケラトロジー *	特殊な形状のハードコンタクトレンズを寝ている間に装着し、	1年目
	角膜の形を一時的に平らにする方法です。日中の良好な裸眼視	16万~
	力を得るとともに近視の進行を抑制できます。同じレンズを繰	20 万円
	り返し長期間使用するため、付着した汚れを丁寧に洗浄してレ	
	ンズを清潔に保つ必要があります。	
	原則、-4.00D までの近視の方が適している治療法です。	
多焦点ソフトコンタクトレ	遠近両用コンタクトレンズとして知られているレンズを用いま	1ヶ月
ンズ *	す。装用中は良好な視力が得られるとともに近視の進行を抑制	6,000 円 ~
	できます。使い捨てのため、衛生面での管理が比較的容易です。	10,000 円
	近視が強くても使用可能ですが、日中に装用するため、ゴミが入	
	ったときなどに自分で取り外すなどの自己管理が可能な年齢の	
	方が対象です。	
レッドライト治療法(red	650nm の赤色光を、専用の機器を用いて自宅で 1 回 3 分、1 日	
light therapy) *	2回、瞳孔を通して目の奥に当てる治療法です。光を当てた直後	網膜障害の
	に一時的なまぶしさ、残像が起こることがあるため、数分目を閉	副作用報告
	じて休むことが推奨されます。	があり当院
	眼鏡による視力矯正は別途必要であり、オルソケラトロジーと	では行って
	組み合わせて使用することは可能です。	いません。
	低濃度アトロピン点眼との併用はできません。また、網膜に異常	
	がないかなど、眼科医の判断が必要です。	

※ 近視進行抑制としては国内未承認です

